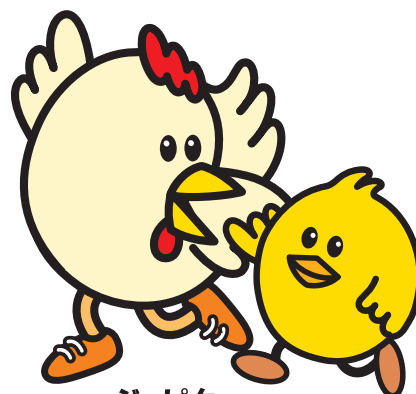




ファー坊



ジェピ太

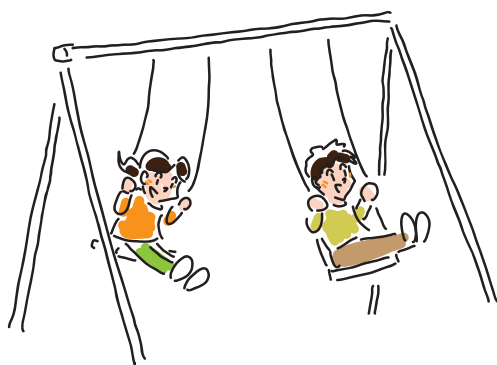
ピエフィ

なかよく

あそぼう

子どもと見守る人のために

あんぜんに



このパンフレットは、宝くじの社会貢献
広報事業として助成を受け作成されたものです。



子どもと見守る人のためのパンフレット

★このパンフレットは、子どもと見守る人が一緒になって楽しく遊び、遊具と遊び場での重大な事故※の発生を未然に防ぐことを目的として作成しています。

★また、遊びの大切さについて、わかりやすくお伝えすることも目的としています。

★**子ども**は、6歳を中心に、幼児期から小学校低学年の児童期（3歳～9歳頃）を主な対象としています。

★**見守る人**は、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校などの保育者・教員などと子どもの保護者などの大人が対象です。

★6歳前後の子どもは、遊具を使った遊びに慣れはじめると共に、動きも活発になる年頃のため、その後、小学校低学年にかけて事故が多くなります。

★このパンフレットを子どもが安全に遊ぶため、子どもと一緒に遊び、見守る際の参考として役立ててください。

重大な事故※：国土交通省・・・30日以上の治療を要する重傷者又は死者の発生する事故



見守る人の役割と位置

- ★見守る人には、子どもが安全に遊べる環境を作るという大切な役割があります。
- ★一人ひとりの子どもの年齢・能力や性格に応じて適切な遊びをうながし、小さな危険に挑戦できるようにすることで大きな危険を防ぎましょう。
- ★遊びを通じて様々なことを学ぶという**遊びの大切さ**を大事にしましょう。
- ★6歳頃までの子どもには、必ず見守る人が付き添ってください。
- ★子どもを見守る場合は、子どもの年齢や遊びの難易度・経験に応じて、手が届く範囲・声が届く範囲・目が届く範囲を定め、そこから見守ってください。
- ★大きな事故になりそうな危険な行動をとっている時に、声をかけたり手を出すようにしましょう。
- ★普段から危ない行動や場所について、子どもと話をしておきましょう。
- ★遊び場からの飛び出しによる自動車・バイク・自転車などとの交通事故にも、注意が必要です。
- ★遊具の近くに置かれている自転車・キックボード・スケートボードや、それで遊んでいる子どもたちにも注意しましょう。

手が届く位置



声が届く位置



目が届く位置



目次

- ・遊びの大切さと多様な危険性への対応(リスク管理)について . . . 3
 - ・遊ぶ前の見守りのポイント . . . 7
 - ・あそぶときの ちゅうい . . . 9
 - ・あぶない あそびかたや ふくそうの子を さがそう! . . . 11
- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| ・ふくごうゆうぐ | ・ロープウェイ | ・スプリングゆうぐ | ・うんてい |
| ・ぶらんこ | ・すべりだい | ・シーソー | ・てつぼう |
| ・ネットクライマー | ・すなば | ・ジャングルジム | ・たいこはしご |
- ・おわりに . . . 17

遊びの大切さと多様な危険性への対応(リスク管理)について

①子どもの成長・発達と遊びの大切さについて

子どもにとって「遊び」は「学び」です

危険を強調しすぎて、遊びの楽しさを奪わないようにしましょう

★様々な環境を通して自由で自発的な遊びを行うことは、こころとからだが発育・発達する上でとても重要です。

★例えば、探求心に基づく遊びを通して、こころに関することでは知能検査などで測れる認知能力だけでなく非認知能力※、からだに関することでは体力、運動能力、危機回避能力等が培われます。



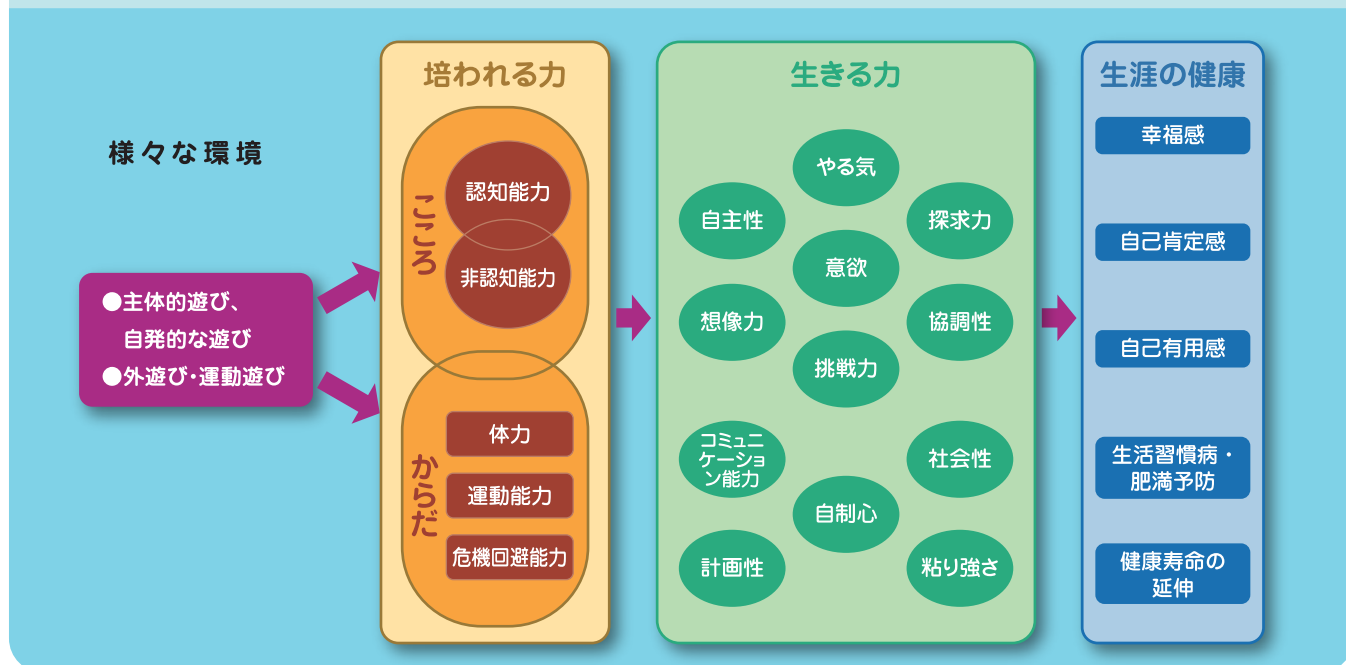
★非認知能力に近い言葉として、文部科学省の学習指導要領などでは生きる力※という言葉が使われています。

★遊ぶ中で成功や失敗の経験をすることで「できること」と「できないこと」を学び、困難な状況から立ち直る力、レジリエンス※を身に付けます。

★これらの力は、積極的に豊かな人生を送るためにとても重要です。

「遊び」で育まれる力

原案：近藤 洋子、仁藤 喜久子



※非認知能力：意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、IQなどで測れない内面の能力のこと。（日本学術会議資料 我が国の子どもの生育環境の改善にむけて 一生育空間の課題と提言2020ーより）

※生きる力：変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい次代を担う子どもたちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力。（文部科学省 中央教育審議会 平成28年 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）より）

※レジリエンス：人間関係、経済、健康などに関する逆境、トラウマ、悲劇、脅威などから起こるストレスにうまく適応する力。（アメリカ心理学会資料 The Road to Resilience より）

外遊び・運動遊びの意義について

・遊びの中でも外遊び・運動遊びの意義については以下の5点が挙げられます。

のびのびと遊ばせて、
たくましい子どもに育てましょう

①体力・運動能力

②健康的な体

③意欲的な心

④社会適応力

⑤認知能力

原案：近藤 洋子、仁藤 喜久子

★楽しく身体を動かす遊びは、①体力や運動能力の発達、②健康で丈夫な体とともに、③様々な活動への意欲や情緒性、創造性などを育むことにつながります。

★外の遊び場で、友だちとの遊びだけでなく、大きな子どもと小さな子どもが一緒に活動する場面では、お互いに気を配り、仲良く遊ぶことで、④社会性、協働性、道徳性や規範意識を培います。

★子ども期の全身運動は、⑤脳の運動制御機能や知的機能の発達促進にかかわり、将来の認知機能の維持・増進にもつながります。

②子どものやってみたいことへの挑戦からの学び

子どもの遊びの特徴と冒険心・挑戦心

★国土交通省の「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」は、「子どもの遊びと特徴」で「子どもが遊びを通して冒険や挑戦することは自然な行為であり」と述べた後に、「子どもは、ある程度の危険性を内在している遊びに惹かれ、こうした遊びに挑戦することにより自己の心身の能力を高めてゆくものであり、子どもの発育発達段階によって、遊びに対するニーズや求める冒険、危険に関する予知能力や事故の回避能力に違いがみられる。」と説明しています。

★このような遊びに関わる子どもの特徴を踏まえて、子どもが遊びの中で、危ないことを予測・管理しながら、やってみたいことに挑戦してその成功や失敗を通して身に付く力は、危険回避能力や生きる力、レジリエンスとなって、生涯にわたって役立ちます。そこで、関係者の方々には以下のような子どもの特性を踏まえながら、子どもの遊びを見守って頂きたいと思います。

★子どもたちの冒険心・挑戦心に関する特性は

- *幼児（3歳～6歳）期は自分の能力以上の行動をとるため、事故が起こりやすく、目を離すことができません。
- *児童（6歳～9歳）期は運動量が増大し、調整能力、敏捷性や瞬発力・平衡性などが発達し、スピードやスリルを楽しみます。また、失敗するとケガをするような遊び方に挑戦しはじめます。
- *幼児から児童期の特性として、「子どもはしばしば、物を使ってそのリスクを増大させながら、限界に挑戦することに興味を示します。しかし、この段階の子どもたちは、危険に対する感覚や危険回避能力が十分に発達しておらず、子どもたちは往々にして自分は何でもできていると感じています。」

(ISO Guide50 Safety aspects -Guidelines for Child Safety in Standard)



③良い危険性「ベネフィット・リスク」と悪い危険性「ハザード」

子どもの成長・発達に役立つ良い危険性「ベネフィット・リスク」

★遊びや遊び場で一般的に「危険」や「リスク」と呼ばれる言葉は、下表「遊びにおける危険性のスペクトラムとベネフィット・リスクアセスメントの関係」で示されるように、地域・社会で受容できる危険性から、受容できない危険性まで幅広い意味の危険性を含んでいます。

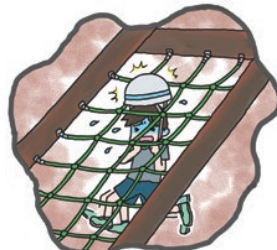
受容できる危険性とは、子どもが予測管理できる、遊びの楽しさを伴う、便益・効用のある良い危険性という意味で、「ベネフィット・リスク」と呼ばれており、子どもの成長や発達に役立ちます。



遊び場から取り除く必要のある悪い危険性「ハザード」

★一方、受容できない危険性とは、子どもが予測管理できない、遊びの価値と無関係で、便益・効用の無い悪い危険性を「ハザード」と言います。そして重大な事故につながる、「ハザード」を遊び場から取り除くことは、国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」や当協会の『遊具のための安全規準』で示されているように、遊び場の関係者（遊具等の製造・設置者、保護者、保育・教育関係者、施設管理者等）などが協力して取り組まなければならない重要課題です。

★また、「ハザード」には、遊具など物に関わる「物的ハザード」と、利用者・人に関わる「人的ハザード」があります。「物的ハザード」は、製造者や管理者が日々努力して、除去するようにしていますが、「人的ハザード」は、遊具で遊ぶ子どもたちと、それを見守る人たち、つまり遊具をつかう人々が理解して取り除かなければなりません。重大な事故につながる可能性のある「人的ハザード」について、本パンフレットを参考に理解を深めていただき、子どもたちの理解を促しながら指導と見守りをお願いします。



遊びにおける危険性のスペクトラムとベネフィット・リスクアセスメントの関係

危険性のスペクトラム	ベネフィット・リスク (良い危険性)	中間のリスク (状況によって変化する危険性)	ハザード (悪い危険性)
事故の程度	軽微な事故(すり傷・切り傷)		重大事故(重傷・死亡)
予測や判断の可否	判断できる危険性		判断できない危険性
ベネフィットの有無	ベネフィットの有る危険性		ベネフィットの無い危険性
受容の可否	受容できる危険性		受容できない危険性
「ベネフィット・リスクアセスメント」との関係	③全体的なベネフィットの判断	②全体的なリスクの推定	①ハザードの診断
	④ベネフィットとリスクのバランスを総合的に判断		

④冒険心や挑戦心が満たせる遊び場づくりのために —管理者に向けて—

「ベネフィット・リスクアセスメント」活用のすすめ

★英国では、受容できる良い危険性「ベネフィット・リスク」か、受容できない悪い危険性「ハザード」かを判断する方法として「遊びのリスク管理導入ガイド」が2002年に発刊され、欧米に広く普及しました。さらに、「ベネフィット・リスク」を積極的に提供する方法として、ISO（国際標準化機構）が、「ベネフィット・リスクアセスメント」を導入して活用するために、ISO4980「Benefit-risk assessment for sports and recreational facilities, activities and equipment」を2023年に刊行しました。そこで、ISO4980の概要を下図「ベネフィット・リスクアセスメントの進め方」で解説しました。

公園や誰もが遊べるインクルーシブな遊び場の管理者や製造者の方は、子どもたちが楽しく、安全で居心地が良く、生きる力やレジリエンス（※P3 参照）を身に付けることができる遊び場づくりに向けて、「ベネフィット・リスクアセスメント」を積極的にご活用頂ければ幸いです。

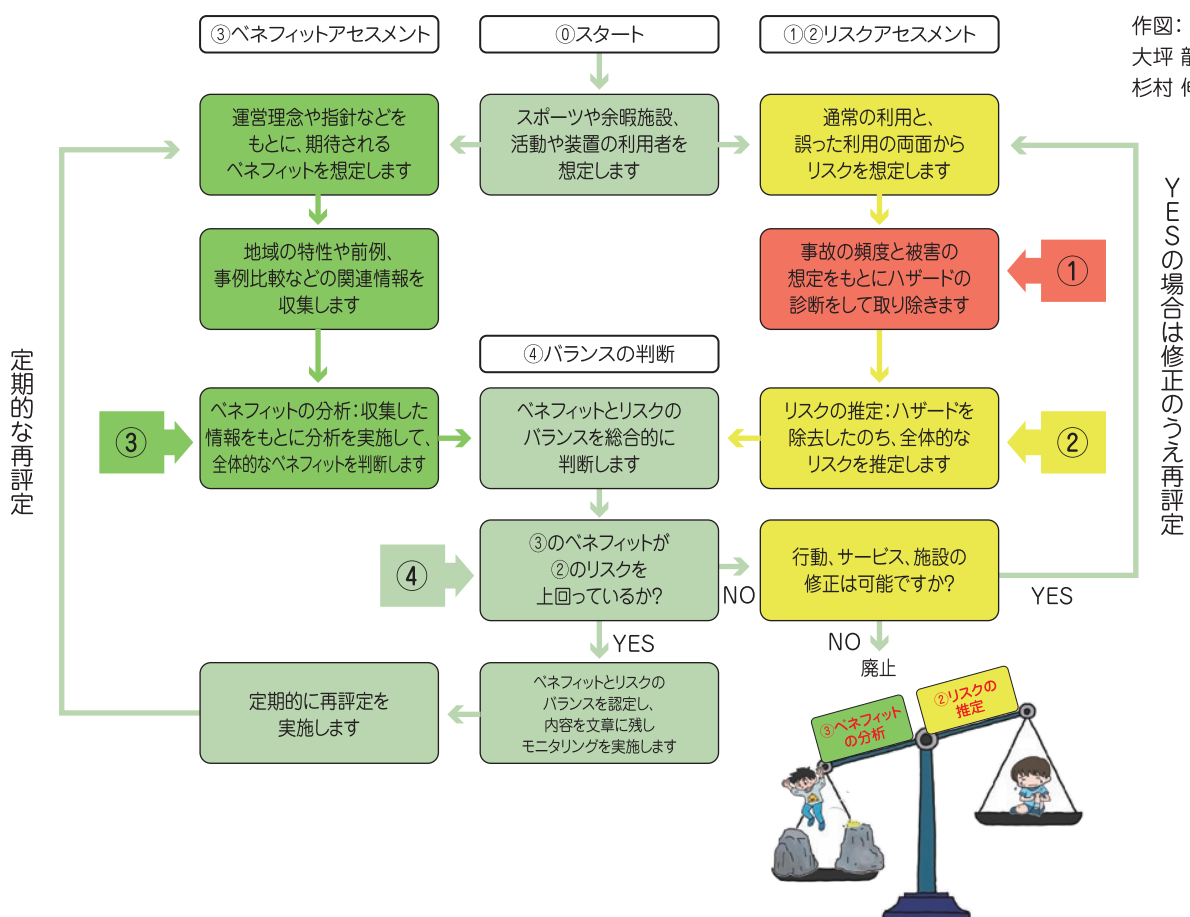
遊び場の危険性に関する「判断の見える化」を

★子どもたちの冒険心や挑戦心によって生じるリスクが、受容できる「ベネフィット・リスク」か、あるいは受容できない「ハザード」かの判断は、難しい問題です。なぜなら、提供されるベネフィットと、リスクのバランスを、下図のようなフロー①～③で、それぞれ推定や判断を行ったうえで最終的に、④で②と③の定性または定量的な情報に基づいて、状況によって変化する危険性である「中間のリスク」について「ベネフィットがリスクを上回っているかどうか」の総合的な判断が求められるからです。

このような「ベネフィット・リスクアセスメント」による遊び場の危険性に関する「判断の見える化」は、子どもたちの冒険心や挑戦心が満たされる、安全で居心地の良い遊び場づくりのために必要不可欠です。

なお、ベネフィット・リスクアセスメントの詳しい進め方は、ベネフィット・リスクアセスメント研究所（IBRA）のHP（<http://ibra.localinfo.jp>）をご参照ください。

ベネフィット・リスクアセスメントの進め方フロー図





遊ぶ前の見守りのポイント

※このページは見守る人が中心に読んでいただき、遊ぶ前の注意点について教えてあげてください。

① 遊び場は安全か？ あらかじめ確かめておこう

本来は管理者が注意すべきことですが、子どもを見守る人も注意して、事故防止にご協力ください。異常があった場合の管理者への連絡先も確認しておきましょう。



- Check ☐ 子どもの年齢に応じた遊具があるか？
小さい子ども用の遊具と大きい子ども用の遊具の場所は近すぎないか？
- Check ☐ 遊具は壊れていないか？
- Check ☐ 遊具はぬれていないか？
砂などがまかれて滑りやすくなっていないか？
- Check ☐ 遊具に  SP マーク (P18) はついているか？
- Check ☐ 遊具の下や周りはコンクリートやアスファルトで固められていないか？
- Check ☐ 遊具の下や周りに、石やガラスのかけらなどが落ちていないか？
放置された障害物はないか？
- Check ☐ 遊び場の内外で水の事故（池や噴水などでおぼれる）や交通事故にあう危険はないか？

② お天気は？

※外遊びをするときには天候にも気をつけてください。炎天下では遊ばず、時間をずらして遊ばせてください。

注意

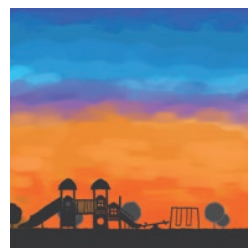
Check ☐ 雨にぬれた遊具は滑りやすいので注意。



Check ☐ 雨や雷が強いとき、光化学スモッグ注意報が出ているときは遊ばない。



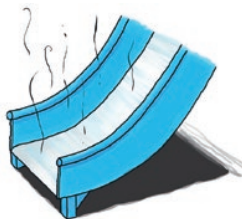
Check ☐ 夕暮れ時は周りが見えにくいので注意。



Check ☐ 熱中症、紫外線にも注意。帽子をかぶろう。



Check ☐ 暑い日はやけどに注意。



日射によりスチールやステンレスなどの表面や舗装面は夏場は高温になる場合もあるので、注意が必要です。

③ 遊び場へ行くときは？

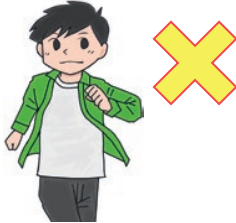
3 歳から 6 歳の幼児には、大人が必ず付き添ってください。

Check ☐ 安全な道をとおり、交通事故や不審者に気をつけよう。

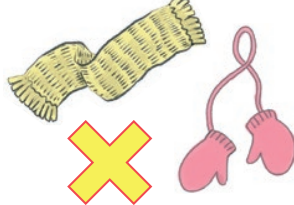
4 遊ぶときの服装は？

子どもに、動きやすい服装をさせてください。引っかかりたり、絡まったりしやすい服装、脱げやすい靴は危険です。
肩掛けかばんや水筒のベルト、ひも付き手袋などが、遊具のすき間・パイプの先端や亀裂などに引っかって窒息事故に至った事例が数多くあります。
また、靴が脱げるとバランスをくずして転倒・転落したりして危険です。足のケガにもなります。水筒を肩・首に掛けたままで転んだ場合、水筒が腹部に当たり、内臓を損傷するという危険があります。

Check ☐ 上着の前を開けっ放しにしない。



Check ☐ マフラーやひも付きの手袋はとる。



Check ☐ ランドセル、リュックサック、肩掛けかばん、水筒ははずす。



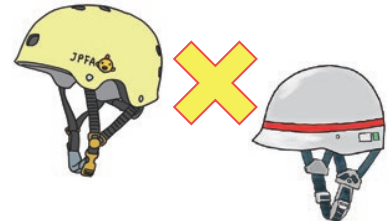
Check ☐ パーカーなど、首のまわりにひもやフードの付いた衣服を着ない。



Check ☐ 足に合った脱げにくい靴をはく。靴のテープはきちんと止める。靴ひもはしっかり結ぶ。



Check ☐ 改正道路交通法の施行により、自転車用ヘルメットの着用が「努力義務化」されていますが遊ぶときは、はずしましょう。



5 体調は？

Check ☐ 適度に水分を補給しよう。



Check ☐ 体調が悪いときは遊ばない。



6 重大事故を防ぐポイント

- 「頭」に注意：頭部への打撲や衝突は、重大な事故につながります。子どもは頭が大きく、バランスを崩しやすいとともに、隙間に頭が通れば身体も通るため、落下しやすいです。落下事故に注意しましょう。
- 「首」に注意：遊ぶ時の衣服にフードやひもが付いていたり、顎ひもが付いたヘルメットやマフラー・ひも付きの手袋を付けていると、遊具の隙間やパイプの先端に引っかかり窒息事故につながります。また、遊具の隙間に脚や胴が通っても、頭が通らないことがあるため、注意しましょう。
- 「指」に注意：手指や足指を挟んだり、潰したり、切ったりすると、元に戻らない障害につながることもあるため、注意しましょう。
- 「大人」も注意：大人は、いつの間にか体力や運動能力が低下しているため、事故に結びつく場合があります。また、すべり台などでは子どもを抱えていると、体の自由が奪われ、敏捷な動きができません。



あそぶときの ちゅうい

※このページは子どもたちと一緒に読んでいただき、遊ぶときの注意点について教えてあげてください。

1 なかよくあそぼう

大きい子は年下の子への
思いやりを

- Check ☐ おたがいに きをつけて あそぼう。
- Check ☐ ゆうぐで あそぶときは じゅんばんを まもろう。
- Check ☐ まえのひとを おしたり つきとばしたりしない。
- Check ☐ ちかくにいる 子どもの うごきに きをつけよう。
- Check ☐ まえとうしろのひとと あいだをあけて あそぶようにしよう。



2 たいりよくにあった ゆうぐで あそぼう

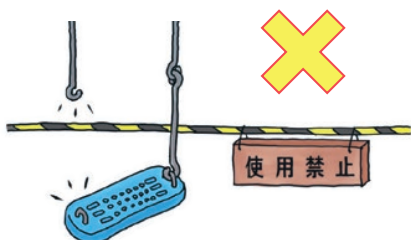
- Check ☐ ねんれいひょうじしールを さがしてみよう。 3つのシールがあるよ、あそぶときの さんこうにしてね。



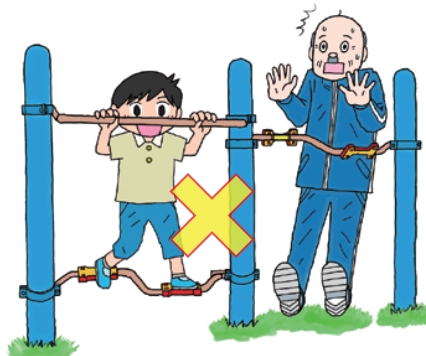
年齢表示シールは、一般社団法人日本公園施設
業協会が遊具を安全に利用するために普及させ
ているシールの一つです。
左のシールはそれぞれ1-3歳、3-6歳、6-12
歳向けの遊具であることを示しています。
利用する遊具の参考にしてください。(P18 参照)



- Check ☐ こわれているゆうぐ、しゅうりちゅうのゆうぐ、
しょうきんし（使用禁止）とかかれている
ゆうぐにちかづかない。あそばない。



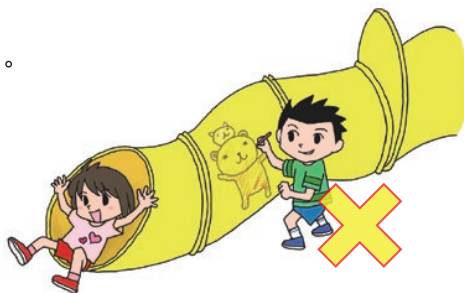
- Check ☐ けんこうきぐは たかさやふとさなどが
おとなようなのであそばない。



3 ゆうぐと あそびばを たいせつに

Check ☐ ゆうぐを こわさないようにしよう。

Check ☐ あそびばを よごさない。



4 ケガをしたら?

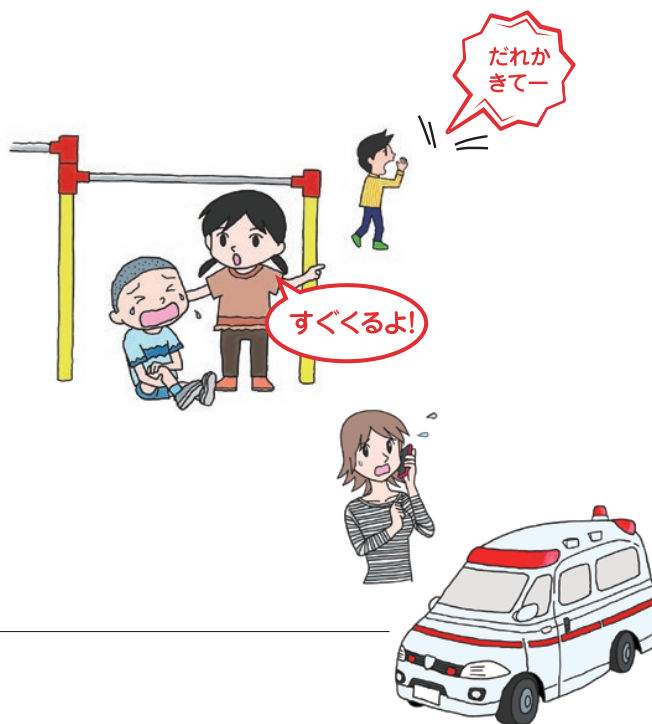
Check ☐ すぐに おとなを よぼう。
おとながくるまで ケガをした子と いっしょにしよう。

Check ☐ ケガをした子は なるべく うごかさない。

Check ☐ ぶつけたところは みずで ひやそう。

Check ☐ ちがでていたら すいどうのみずで あらい
せいけつな ハンカチやタオルなどで おさえよう。
(ほかの子の ちにはさわらない)

Check ☐ おおきなケガのときには 119 ばんに でんわをして
きゅうきゅうしゃを よぼう。
きんきゅうの れんらくさきがあれば そこにれんらくしよう。



5 あそんだあとは てあらい・うがいを わすれずに

Check ☐ あそんだあとは みずのみばや せんめんじょで かならず
てをあらい うがいをしよう。

6 ほかの きけん

Check ☐ くるまや じてんしゃに ちゅういしよう。どうろに とびださない。

Check ☐ しらないひとに こえをかけられても ついていかない。

Check ☐ つながれていない いぬに きをつけよう。



あぶない あそびかたや ふくそうの子をさがそう！

ふくごうゆうぐ

ヒント！あぶない子は6人いるよ



ぶらんこ

ヒント！あぶない子は3人いるよ



ネットクライマー



ロープウェイ



あぶない あそびかたや ふくそうの子をさがそう！

すべりだい



すなば



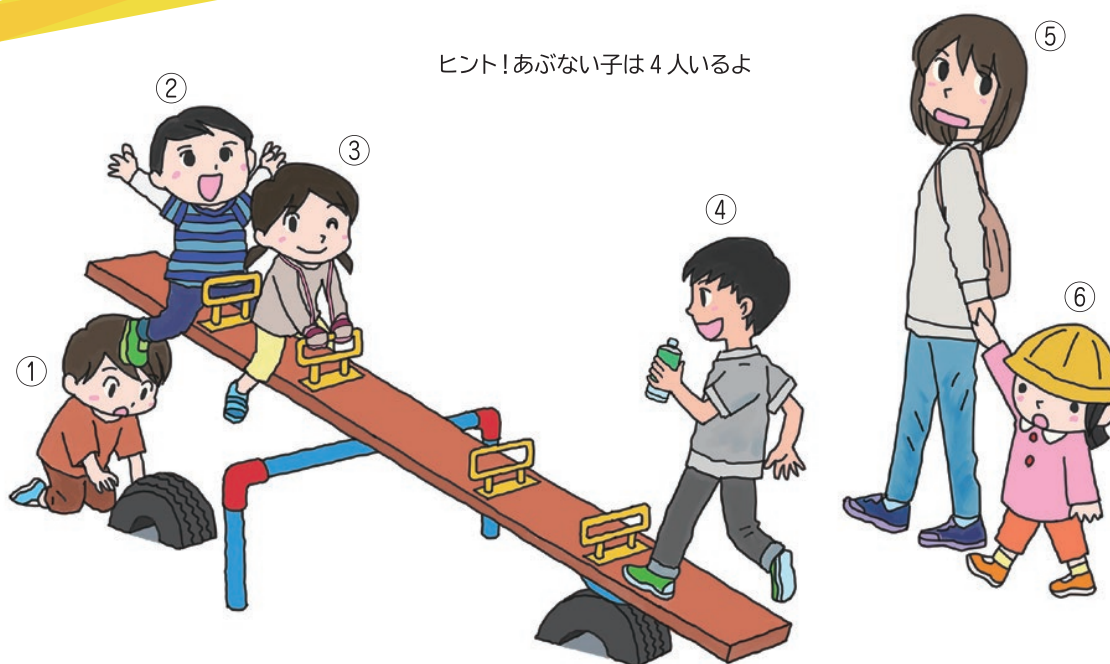
スプリングゆうぐ

ヒント!あぶない子は4人いるよ



シーソー

ヒント!あぶない子は4人いるよ



あぶない あそびかたや ふくそうの子をさがそう！

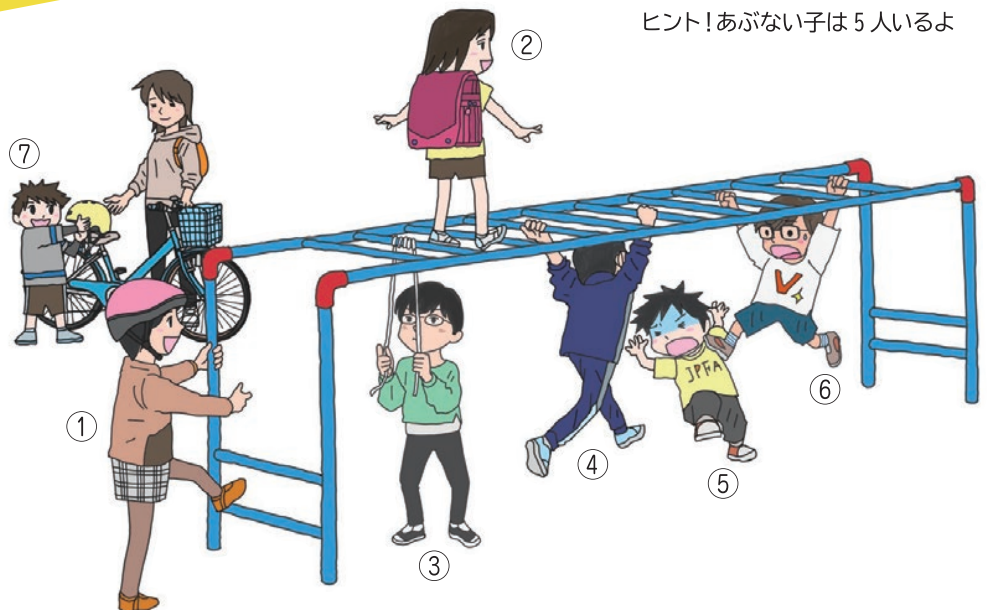
ジャングルジム

ヒント！あぶない子は 3 人いるよ



うんてい

ヒント！あぶない子は 5 人いるよ



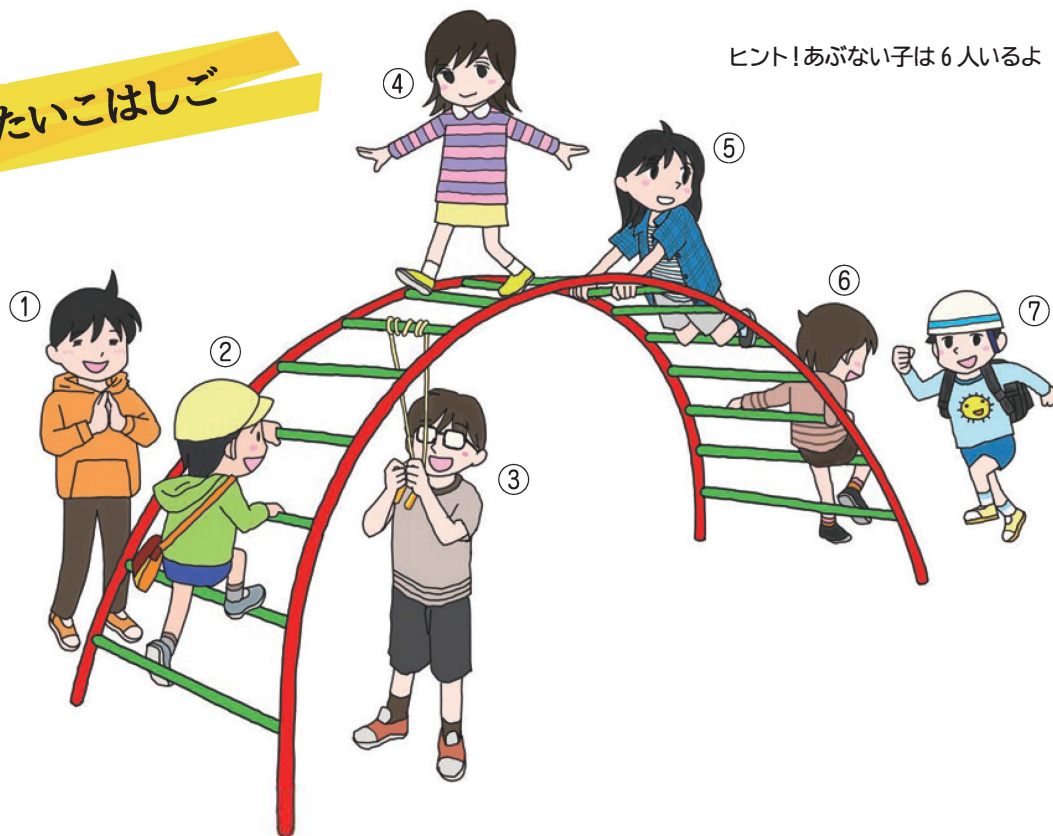
てつぼう

ヒント!あぶない子は4人いるよ



たいこはしご

ヒント!あぶない子は6人いるよ





一般社団法人日本公園施設業協会(JPFA)の取り組み

JPFAは遊具を「つかう（子どもと見守る人）立場」「つくる立場」「まもる立場」「しらせる立場」の4つの立場から積極的な活動をしています。詳しい内容については、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

パンフレットを活用する場合は・・・

- ①このパンフレットの内容をできるだけ多くの方々に理解し活用していただきたいので、コピーは原則として自由です。
ただし、内容等の変更利用はお断りします。
- ②引用する場合は出典（一般社団法人日本公園施設業協会「なかよくあそぼうあんに（2025年版）」と明記してください。
- ③ホームページにデータを掲載しておりますので、どうぞご利用ください。

こたえ

ふくごうゆうぐ

- ①フードのついたふくをきない、すいとうをはずす
- ⑤はしらのぼらない
- ⑥リュックをはずす
- ⑦マフラーをはずす
- ⑨うえにひとがいるときはのぼらない
- ⑪すべりだいのおりぐちのそばにいかない

ぶらんこ

- ②はりにぶらさがらない
- ③とびおりない
- ⑤ブランコをこいでいるそばにいかない

ネットクライマー

- ②リュックをはずす
- ③ゆうぐのはしらのぼらない
- ④ヘルメットをはずす
- ⑤スマートフォンをつかわない、かばんをはずす
- ⑦フードのついたふくをきない、うわぎのまえをあげたままにしない

ロープウェイ

- ①②ふたりでのらない
- ③フードのついたふくをきない
- ④せなかをつよくおさない
- ⑥⑧ロープウェイのそばにいかない
- ⑦ケーブルをにぎらない

すべりだい

- ①マフラーをはずす、かばんをはずす
- ③かばんをはずす、たったままおりない
- ④フードのついたふくをきない、したからのぼらない
- ⑤マフラーをはずす、おりぐちのそばにいかない

すなば

- ①いぬやねこのフンにちゅうい、あそんだあとをはてをよくあらう
- ②ガラスやきんぞくへんにちゅうい
- ④ひとにすなをかけない

スプリングゆうぐ

- ①てをはなさない
- ②あそんでいるそばにいかない、すいとうをはずす
- ④⑤ふたりでのらない

シーソー

- ①したにもぐらない
- ②てをはなさない
- ③ひもつきてぶくろをはずす
- ④たつてのらない、ものをもってあそばない

ジャングルジム

- ②たかいだんからとびおりない
- ③ものをなげない
- ④いちばんうえでたたない

うんてい

- ①ヘルメットをはずす
- ②うえにのらない、ランドセルをはずす
- ③ゆうぐにひもをまきつけない
- ⑤あそんでいるそばにいかない
- ⑦じてんしゃはゆうぐのちかくにとめない

てつぼう

- ③すいとうをはずす、サンダルをはかない
- ⑤あそんでいるそばにいかない
- ⑥うえにのらない
- ⑦ゆうぐにひもをまきつけない

たいこはしご

- ①②フードのついたふくをきない
- ②かばんをはずす
- ③ゆうぐにひもをまきつけない
- ④うえにのらない
- ⑤うわぎのまえをあげたままにしない
- ⑦ヘルメットをはずす、ランドセル・リュックサックをはずす



SPマークは安全・安心な遊具の目印です。

一般社団法人日本公園施設業協会(JPFA)が定めた「遊具の安全に関する規準」に従って製造された安全・安心な遊具であることを証明するマークです。

年齢表示シール



日本の遊び場に初めて導入した年齢区分が分かるシールです。遊具に合った利用年齢を示すことで大きな事故の回避に役立ちます。

遊具個別注意シール(例)



使い方によって事故が起きそうな遊具に直接貼って事故を回避するために作られたシールです。



パンフレット DL データ



JPFAホームページ
<https://www.jpfa.or.jp/>

メールアドレス: info@jpfa.or.jp

このパンフレットに関するご意見・ご感想等がございましたら、こちらまでご連絡ください。

なかよくあそぼうあんぜんに 子どもと見守る人のために (2025 年版)

編集・発行 一般社団法人日本公園施設業協会 (JPFA: Japan Park Facilities Association)
会長 内田 裕郎
〒104-0043 東京都中央区湊 2-12-6 TEL(03)3297-0905 FAX(03)3297-0906
発行年月日 2025 年 5 月 1 日

「遊具の安全な利用方法の啓発資料作成委員会」

委員 大坪 龍太 (PSN: プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表)
(50 音順) 荻須 隆雄 (元玉川大学教育学部教授)
木下 勇 (千葉大学名誉教授)
近藤 洋子 (玉川大学名誉教授)

協会委員 内田 裕郎 (一般社団法人日本公園施設業協会会長)
高橋 晃裕 (同・副会長)
栗田 耕司 (同・広報委員長)
藤吉 信之 (同・専務理事)
山本 教夫 (同・特別参与)

見直しワーキンググループ学識者メンバー

大坪 龍太 (PSN: プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表)
近藤 洋子 (玉川大学名誉教授)
杉村 伸一郎 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)
仁藤 喜久子 (玉川大学教育学部乳幼児発達学科准教授)

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



い どうさいけつしゃ
移動献血車



いちりんしゃ
一輪車



すべ だいりょうば
滑り台広場



しょうぼう だんぼう さい がくしゅう
消防防災学習



あおいろうかいてん どう そう び しゃ
青色回転灯装備車



たから 宝くじドリームジャンボ絵本

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。



一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
<https://jla-takarakuji.or.jp/>

